

各部会における論点と議論の方向性について  
(第2回フロンティア分科会配布資料)

# 平和のフロンティア部会における論点と議論の方向性について

2012年3月8日

中西寛

## 1. 審議状況

- 第1回(2/7) 顔合わせ、部会長、部会長代理からのプレゼンテーション
- 第2回(2/17) 委員(金子、神保、谷口、渡部) プレゼンテーションと討議
- 第3回(3/5) 委員(池内、須賀、鈴木、深川) プレゼンテーションと討議
- 第4回(3/16) 委員(飯塚、石井、稲田、高原) プレゼンテーションと討議
- 第5回以降 中間報告に向けた議論

## 2. 部会における主な論点

○2050年の国際政治は予測困難だが、2025年まではほぼ現在の延長線上で予測できる。

2020年～30年の間に中国がアメリカにGDPで追いつく可能性が高い。しかしその後は差が開く可能性も、アメリカが抜き返す可能性もある。

2030年頃まではアジア太平洋地域が世界経済の成長の中心であり、最もダイナミック。それ以降は、南アジア、中東、アフリカ、中南米に移行する可能性がある。

○現状では日本の国力は衰退ないし縮小傾向にある。大胆な発想の転換、既存の制約の突破なしには、国際政治において受け身の存在となり、領域支配といった最小限の主権すら守れない事態も考えられない訳ではない。

### ○ハード・セキュリティ

米中の中にあるという位置が基本的に重要。米中が政治経済軍事面で拮抗する状況を予測し、集団的自衛権の行使の検討を含めた日米同盟の強化、海洋ないし民主主義国との協力の強化が必要、という点では部会内で基本的一致。

ハードパワーには限界があるので、先進国・新興国を含めた国際ルールを強化することに日本が貢献し、日本の安全を高めるべき。

### ○広義の平和と日本の国力

今日の平和は狭い意味での戦争回避だけではなく、経済や安心感、「人間の安全保障」など多面的要素を含む。戦後日本の平和主義は広義の平和について役割を果たしてきたし、その側面は日本の外交力の資源として強化されるべき。

経済大国としての地位は構造的に失われつつある。ただし、自前の創造力や社会的強靱性は重要な国力であり、効果的に活かすことが重要。また、

「課題先進国」としての立場を活かした新分野や独自の新フロンティア開拓など。

世界からの知的ガラパゴス化が大きな懸念材料。新興国の上層中産階級は欧米社会のエリート層と深いネットワークを築いており、日本の知的世界、言論空間の孤立が目立つ。状況打破のために思い切った施策が必要。教育制度、メディアのあり方、公務員の人材育成など。

### 3. 今後の議論の方向性

これまでのところ、議論の大きな方向性は一致している。

能動的平和主義、国際秩序のルールメーカーとしての日本  
当面、米中関係を軸とした国際秩序の文脈  
既存政策の抜本的な変革による国力の向上が必要

今後各論についてももう少し詰めていく必要があると考える。

具体的提言に何をどこまで盛り込むか

テーマの絞り込みと他部会との調整

経済産業政策、財政、教育、公務員制度／国家体制

# 繁栄のフロンティア部会における論点と議論の方向性について

2012年3月8日

柳川 範之

## 1. これまでの審議状況

第1回 2月15日 部会の進め方等について、意見交換

第2回 2月23日 委員からのプレゼンテーション、意見交換  
(星野佳路委員、戸堂康之委員)

## 2. 部会における主な論点

繁栄のフロンティアを築くには以下の諸点が重要との認識

### ・フロンティア人材の開発

(例えば、柔軟な能力開発体制(やり直しがきく体制)、高齢者と呼ばれた年齢でも元気に活躍できるような人材開発体制作り、若年層あるいは女性の技能習得の促進、国際的に活躍する能力(多言語、多文化への対応力)の開発など)

### ・経済の活性化、経済成長

(例えば、医療やインフラなどシステム開発輸出、規制緩和、成長分野に資金が回るような金融の仕組み、海外からの有能な人材の受け入れ、サービス産業の生産性向上など)

### ・内外のヒト・モノ・カネを引きつける地域

(地方の魅力をどのようにして高めるか、例えば、アジア経済圏の確立による地域活性化、海外と直接つながる地域、農業の発展など)

## 3. 今後の議論の方向性

今後各論点について、具体的な方向性や政策の在り方について議論を深めていく予定である。

## 4. 今後の予定

第3回 3月12日 委員からのプレゼンテーション

(秋山咲恵委員、齋藤ウィリアム浩幸委員)

第4回 3月19日 委員からのプレゼンテーション

(鎌田由美子委員ほか)

第5回以降 中間報告に向けた議論

# 幸福部会における論点と議論の方向性について

2012年3月8日

幸福部会 阿部 彩

## 1. これまでの審議状況

第1回 2月10日 今後の進め方、意見交換

第2回 2月24日 上村部会長代理、石戸委員、小宮委員、小室委員、  
福島委員からのプレゼンテーション、意見交換

第3回 3月1日 永田委員、新田委員、福島委員、古市委員からの  
プレゼンテーション、意見交換

(部会長、部会長代理により各委員のヒアリング順次実施中)

## 2. 部会における主な論点

・何をを目指すのか:主観的幸福(Happiness)、希望(Hope)、実質的な生活水準(Well-being)

・「幸福」の諸条件としての各分野の議論

教育:教育格差、表現力・想像力・国際性・体力を育む教育、義務教育、大学受験のあり方、デジタル化、複数の学ぶ場

家族:血縁にこだわらない地縁・社縁・コミュニティなどの「バーチャル・ファミリー」  
拡大家族ネットワーク、家族を支える仕組み(遠距離交信、地域の在り方、両立支援のテクノロジーと働き方)、生活スタイルのイノベーション

働き方:長時間労働の弊害、家事・介護などの無償労働の軽減

地域:「場」の提供、分散化した日本へ、地域促進、「場所」にとらわれない働き方、「共有(地)」の拡大、共有スペース、屋台村、

食:社会保障としての食の保障、自給率、質の高い食の提供、外食革命

国際:国境を越えた「幸福」、自国の「防御」、高齢社会のトップランナーとしてのアドバンテージを活かす

## 3. 今後の議論の方向性

2025年、2050年のあるべき「姿」は見えつつあるので、そこに到達するための具体的な政策と目標について、議論を進める。

## 4. 今後の予定

第4回 3月19日 國光委員、野口委員からのプレゼンテーション、意見交換、中間報告の骨子と取りまとめ方針について議論

第5回 4月6日 中間報告に向けた議論

第6回以降～ 中間報告とりまとめ

## 叡智のフロンティア部会における論点と議論の方向性について

2012年3月8日

叡智部会 荻部 直

### 1. これまでの審議状況

第1回 2月8日 今後の進め方、意見交換

第2回 2月20日 隠岐部会長代理、金森委員、坂田委員、黛委員からの意見発表、意見交換

第3回 3月5日 金子委員、鈴木委員、高木委員、原委員からの意見発表、意見交換

### 2. 部会における主な論点

- ① グローバルな知や文化とローカルな知や文化の二つをどのように組み合わせ、いかにして新しい価値を生み出し、日本のオリジナルな文化として世界に発信していくか。
  - グローバル化の流れの中で、オンリーワンの知や文化を生み出し、地域の問題解決に貢献する大学や、社会の中で尊厳を持って生きていくために必要な資源としての教育の保証をいかにして充実させていくか。
  - 柔軟で自由度、流動性のある社会のシステムをいかに作っていくのか。文化の豊かさをもたらす社会的排除のない開放的な社会をいかにしてつくっていくか。
  - 可能性のある人間が会える場、いわば知の運動会のような場を作って多様な人材がぶつかり合い、知のシャッフルを起こしていくことが必要。人々の才能を無駄にしないために流動的で柔軟な、自由度の高い社会が必要。
  - 様々な知の可能性を、閉じ込めため込むのではなく、共有化して活用するために、情報を編集して可視化できる人材が必要。そのような作業の核となる人材を養成するとともに、社会が編集と交流の場を共有することが必要。
- ② 変化するもの、変化すべきものと、変化しにくいもの、あるいは変化させてはいけないもの、変えられないもの。その二つをどのように組み合わせしていくのか。
  - 日本語や日本の文化に誇りを持ち、どのようにして守り育てていくのか。日本の生活の中で受け継がれてきた文化や知恵、また礼節や規範、美意識といった叡智をいかにして継承、発展させていくか。協調性や公共精神の高い社会をいかに維持していくか。
  - 経済的な豊かさと日本の文化を守るということは矛盾しない。また、文化や芸術と経済とは矛盾し対立するものとの考え方ではなく、両者を結びつけて考えていくことも重要。
  - グローバルな人材を育成するために大学などは積極的に海外との交流を進めるなどの改革が必要であると同時に、我が国の強みである高い基礎学力を維持するために困難を抱える子供に対する経済的支援や学習支援を充実させることが重要。
- ③ データ化できる、あるいは人工知能に転用できるような知と、そのような処理になじまない人間的な、身体に組み込まれたような知。データ化できるような知と、そ

ういうことができない形にならない知をどのように組み合わせるのか。

- 身体的叡智は社会の中でのコミュニケーションに欠かせないもの。教育などに取り入れていくとともに、国際的な価値として発信していくことが重要。
- DNAの二重らせん構造が発見されたときには年間100本ほどの関係論文が出ていたが、現在は約10万本の論文が出ている。このような知の爆発ともいえる状況の中で知識を社会へとつなげるために、知識を社会の問題解決につなげるリーダーとなる人材の育成、21世紀型の手法の導入、大胆な社会実験などが必要。
- 情報化の一層の進展によりデジタル化されたあらゆる情報が国境を越えていくことになる。その中ではデジタル化できないものしか日本に残らないが、これこそが一番大事な文化ではないか。日本は、東洋の歴史ある文化国家として、文化の輸出国になるべきである。

### 3. 今後の議論の方向性

さらに委員から意見を聴取して論点を整理し、中間報告に向けた議論に移っていくこととする。

### 4. 今後の予定

- 第4回 3月23日 中村委員、松尾委員、山崎委員からの意見発表、意見交換  
中間報告の骨子取りまとめ方針について議論
- 第5回 4月9日 中間報告に向けた議論
- 第6回以降～ 中間報告とりまとめ